

# リコーダー

ソプラノ・リコーダー

アルト・リコーダー

- リコーダーは、ルネサンスからバロックの頃にかけて盛んに用いられました。
- 18世紀中頃にフラウト・トラヴェルソ（バロック・フルート）が広まると、使われる機会は急速に減少しましたが、20世紀になってから復活しました。



## リコーダーの魅力

リコーダーは息を使って音を出す楽器なので、歌に似ていると思います。演奏中は自分自身が楽器の一部になっている感じで、感情や思いがストレートに伝わる楽器です。それがリコーダーのおもしろさであり、魅力でもあります。

あんどう ゆか  
安藤由香

4～5-1

- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。

## ● 吹いてみよう

ソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーは管の長さや太さが異なり、同じ運指でも音が異なります。次に示した運指で音を出し、どのような関係になっているか確かめましょう。

### 運指が共通の音の例

The diagram illustrates five common fingerings for soprano and alto recorders. Each fingering is shown on a recorder and on a musical staff. The soprano staff is labeled 'ソプラノ' and the alto staff is labeled 'アルト'. A bracket on the right indicates '運指が共通の音' (Fingerings that are common).

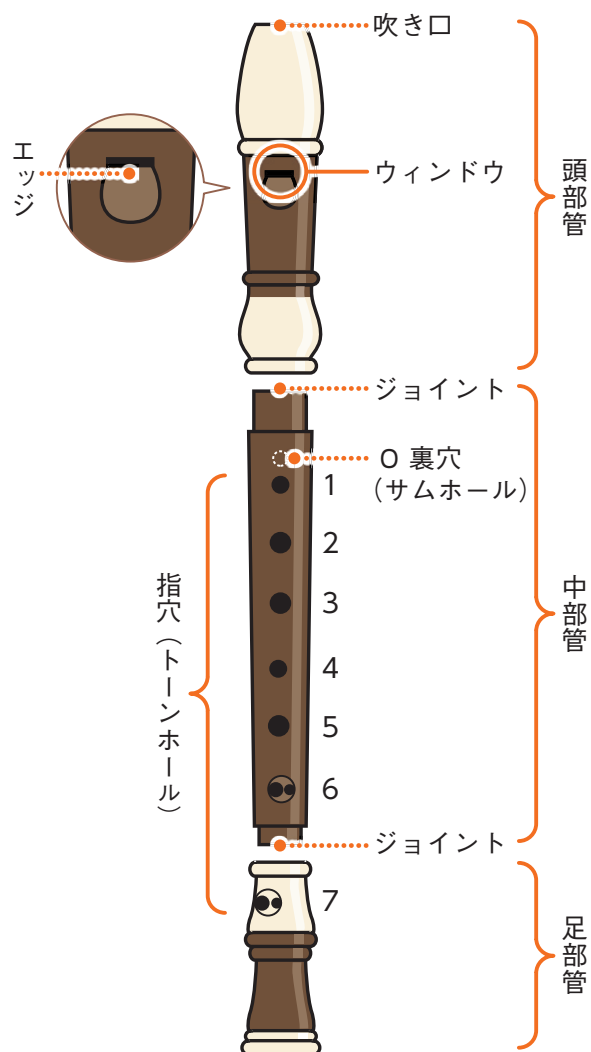
運指 (Fingering)	ソプラノ (Soprano)	アルト (Alto)
0 ● 1	C4	C3
0 ● 2	D4	D3
0 ● 1 ● 2	E4	E3
0 ● 1 ● 2 ● 3	F4	F3
0 ● 1 ● 2 ● 3 ● 4	G4	G3

この小さな8は、実際の音（実音）が1オクターヴ高いことを表します。

4 ~ 5 - 2

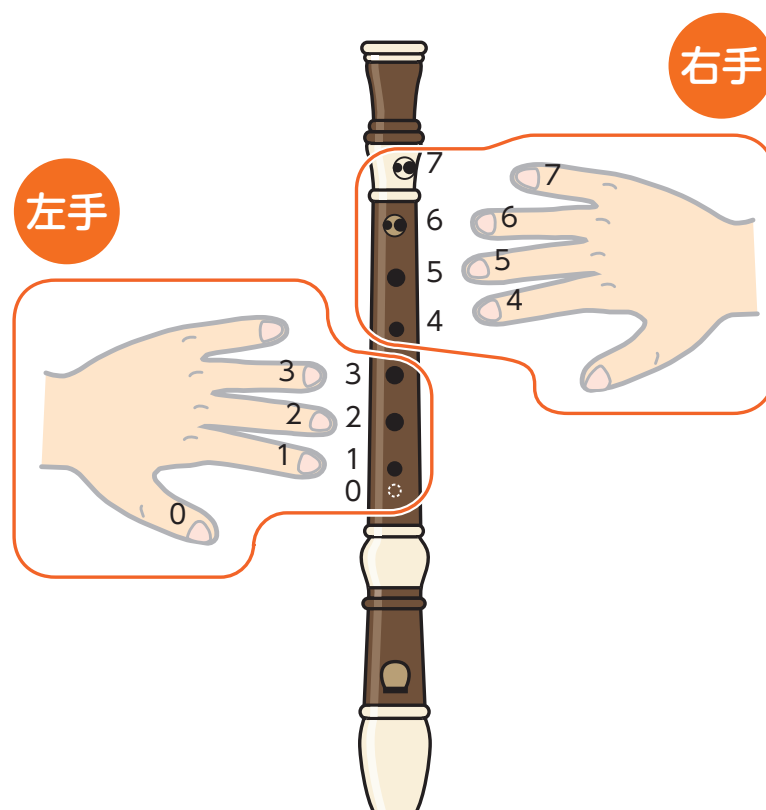
- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。

## めいしょう 各部の名称



## 指穴の番号と指番号

指穴は、次の図で示された指番号と合った指で<sup>ふさ</sup>塞ぎます。



4 ~ 5 - 3

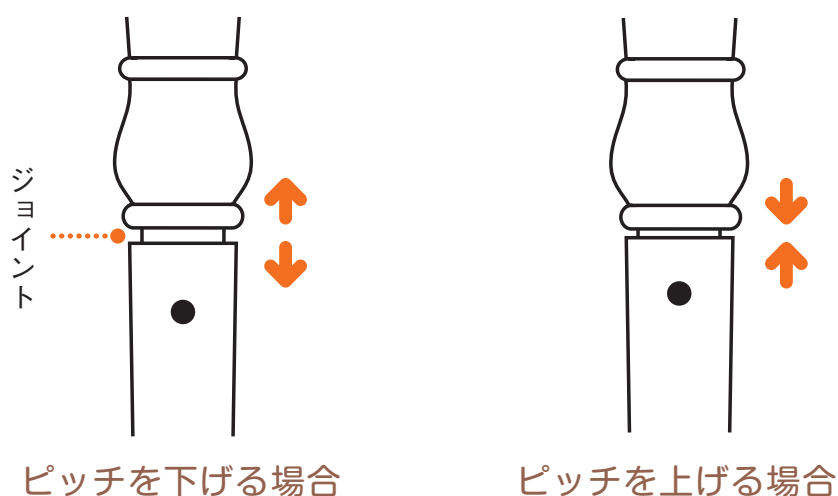
- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。

## チューニング

音合わせをすることを、チューニングといいます。リコーダーは、図のようにジョイントを抜いたり差し込<sup>こ</sup>んだりすると、ピッチ（音の高さ）が変わります。

リコーダーは吹き始めと、しばらく吹いて楽器が温まったときとでは、ピッチが変わることがあります。吹く前に頭部管をてのひらで包み温めておくと、チューニングがしやすくなり、音のかすれの原因となる水がつきにくくなります。

## ピッチの調整の仕方



- ・ B4の用紙で印刷してください。
- ・ 点線で切ると実際の大きさになります。